

融資にしても顔を見て貸せば大体信頼が置けるものでした。まさに、顔を見て貸す社会であったわけです。一方、アメリカは、顔を見て貸すと人種差別になります。それゆえ、初めからマニュアルを作るのです。そこへまさに軍人の技術、不確実性の議論というのが進化して入っていきました。そして、バリュー・アット・リスクというリスク管理による手法が金融の世界を席卷しました。ところが、このバリュー・アット・リスクというリスク概念は、一つの手法に過ぎないので、こればかりを妄信してはいけないと言われていたにも拘らず、一旦マニュアルになってしまうと、それが大典のごとくみんなを動かしていきました。その行き過ぎの結果がサブプライム問題に行き着くということです。

いずれにしても、この軍民転換政策は、特にITの発達を促したことによって、世界中を変えました。今や情報は世界を駆け巡ります。今では、情報が流れないところにはお金が流れないということになりました。経済活動は、常に情報に連れて動くという社会ができてしまいました。

オンリーワンを売っていく時代

「靴下屋」というのをご存知の方がいらっしゃるかもしれません。大阪のダンという会社です。イギリスの高級百貨店として唯一大成功をしているハロッズで、去年一年間で2度にわたって最高賞を取った店がこのダンです。同社は、インターネットが発達していない時代に、売場で売れたものを必ずすぐメーカーがダウンロードできるようにしました。1,000種類もある靴下のどれが売れたかが分かり、その売れたものを日本で生産していくものですから、不良在庫がおきません。同社は、一切中国へ出て行きません。だから、男物でも一足1,200円と高いわけです。これによって日本製の感触のいい靴下ができます。さらに、同社の社長は毎日裸足です。そして、試作品の靴下を一足一足試着し、それが合格するまで絶対に増産させません。それをやるから履き心地がよく、値段が高くてもハロッズに来るアラブの王様が全部買い占めて帰るようなこともあるのです。日本の技術で作ることで世界に負けないものができます。今や、同社は、靴下に関して世界一のブランドメーカーになりました。まさにこういうことが可能な時代になっています。

アジアの中の舞鶴

どのように地域振興したらいいかと言えば、中国と違う、自分の国の地域の個性を出せばいいの

です。この舞鶴は、自衛隊の基地を持つという個性があります。素晴らしい港も持っています。いくらでも個性はあります。それをどうやってPRし、情報を流すかという時代になっていると思います。この情報が世界を巡り、益々経済が動き、お金の流れるところが大きく変化します。これからの日本は、自分で新しい世界地図を創っていく時代です。自分たちの手で国を考えていく時代だと思っています。是非皆様方ももっと自信を持って、自分たちのいいところを伸ばすことが何より重要だということに気付いてください。例えば皆様方も、ここがものすごくいい観光地だということも知っておいてください。なぜなら、アジアの中で生水が飲める地域はありません。こんなに美味しい水道水があり、きれいな川が流れ、海があり、美味しい魚が食べられて、こんなところは他にありません。アジアの中の舞鶴と考えるなら、さらにいろいろな戦略が生まれると思います。皆さん方も自分らで発信することによって、もっといい地域が作れます。まさに、ナンバーワンよりオンリーワンなのです。本当にそれを磨いていくことがこれからの戦略だと思っています。

一つを選択するということ

ただ一つだけ、忘れて欲しくないことがあります。それは、一つを選択するということです。これからの生き方は、一つを採って他を諦めるということを選んでください。右肩上がりの量的拡大の時代には、一つを選択するけれど、他も諦められない人が多過ぎました。しかし、これから選択するということは、他を諦めることです。それが出来た人、それが出来た企業、それが出来た地域、それが出来た国だけが、ある意味で、繁栄を勝ち取れるということだと私は思っています。是非皆様方にも諦める、その努力がいます。これが求められる時代だと思っています。



熱心に耳を傾ける来場者